

タイトル：2020 年度教育セミナー（第 16 回）

日時：2020 年 9 月 17 日（木）～20 日（日）

オンライン開催

「スレイマン 1 世時代におけるオスマン朝の対ハプスブルク外交—オスマン朝の世界認識の分析を中心に」

松倉宏真（九州大学大学院）

今年度の教育セミナーは、新型コロナウイルスの感染拡大のためオンライン開催となりました。受講生発表が 7 回、講師の先生方によるセミナーが 6 回、初日にはオンラインでの情報交換会という内容で、4 日間にわたり行われました。初参加ではありましたが、2 日目には発表の機会があり、非常に有意義な時間となりました。以下の感想・評価が次回以降参加する学生の参考になれば幸いです。

○感想・評価：発表について

セミナー 2 日目に発表をする機会がありましたので、ここでは受講生発表について述べます。本セミナーの発表は、受講生による発表が 40 分に対して、質疑応答が 30 分という十分な時間が設けられています。とりわけ本セミナーに最も特徴的であると言えるのは、イスラームや中東を軸に、先生方が 10 名、受講生は 13 名が、時代・地域・分野を横断したかたちで参加しており、通常の学会やゼミ等の発表の場では得られない視点から、質問や指摘があり、研究を見直す助けになるという点です。勿論、自分の研究対象と専門の近い先生からの質問・指摘もあり、取り組んでいる研究の全体像から細かな点までを見直し、修士以降の研究の方向性を見通すという点でも非常に良い機会となりました。

セミナーに参加予定の学生で、発表をするかどうかを迷っているのであれば、応募することを強くおすすめします。発表当日だけではなく、準備の段階から多様な分野の聞き手を想定することで、ここでも、自分の研究を考え直すよいきっかけとなります。加えて、セミナーが 9 月中旬に行われるため、ひとつの目標をもって夏休みを過ごすことができるかと思えます。

また、受講生の発表以外にも講師の先生方のセミナーもプログラムに組み込まれています。最新の研究発表だけでなく、先生方の研究を俯瞰し振り返る話、研究に至るプロセスなど、普段では聞けないような話を約 60 分、質疑応答を 40 分間と、計 6 人の先生方か伺えるまたとない機会があり、非常に恵まれた時間であったと思います。

○最後に

今年度はオンライン開催ということで、以前に参加した学生の報告にあるような対面での出会いというものはありませんでしたが、オンライン上でも非常に充実した時間を過ご

すことができました。研究というものに対して非常に前向きになることができるセミナーでした。来年度以降、対面で再び集まることがあれば、ぜひ参加させていただきたいと思います。

前年度とは異なる状況で非常にお忙しいなか、セミナーの準備・連絡をしてくださった先生方、事務局の千葉様、私の発表に質問・指摘をしてくださった先生方・受講生の皆様、本当にありがとうございました。